

## 平成26年度 第1回 磐田市特別支援連携協議会 議事録

【日 時】 平成26年6月3日(火) 14時～16時

【場 所】 磐田市役所西庁舎302会議室

【出席者】 委員14名・事務局4名

### 1 開会

### 2 連携協議会委員委嘱状交付

### 3 教育長あいさつ

### 4 委員・事務局自己紹介

### 5 会長・副会長選出

### 6 会長あいさつ

### 7 協 議

#### (1) 磐田市特別支援体制 磐田市あったかトータルサポートについて

##### 発達支援室から説明

- ・組織の改編でこども部が新設され子育て支援課、幼稚園保育園課の2つの課ができ妊娠期から幼児期まで成長を一貫した体制を支える。臨床心理士、保健師、学校や幼稚園教諭、保育士等の専門職でチームを組み対応する。

##### 支援の事業

- ・縦割りでなく連携して支援をするように教育、保健、福祉等の関係課と発達支援センター「はあと」と交えたシステム作りを行う。
- ・磐田市あったかトータルサポートでは、ワーキング会議を定例的に実施。拠点は、発達支援センター「はあと」で、通園事業相談事業、連携支援の業務を委託している。児童福祉法に基づいた児童発達支援の業務も行っているため18歳未満も対象となる。就園、就学時に保護者と関係職員が、個別サポートファイルを作成し途切れない支援体制の整備をする。
- ・磐田市発達支援センターの業務は、1歳6か月児健診を実施、早期療育支援を開始する。専門職による発達検査も含めた相談の業務。継続的な相談業務の充実を図る予定。
- ・資質向上のために研修を実施。
- ・就園は、母子保健の保健師、発達支援センター「はあと」、幼稚園保育園課で行う支援。就学は、学校教育課、幼稚園保育園課、発達支援センター「はあと」と連携した支援。小中学校は、専門家チーム会議、緊急派遣という形で支援。
- ・情報の共有を目的で子育て支援システム会を2か月に1回開催。
- ・ペアレントトレーニングと親支援講座を開催。県の協力を得てスクールカウンセラーを配置。年に1度講演会開催。各種関係機関、団体への研修会に発達支援センター「はあと」の職員が講師として出向くこともある。

##### 課 題

- ・1歳6か月児健診の時から早期発見の必要性を感じているので発見法を見直し検討。連携強化、保護者を中心とした連携を強める。
- ・発達支援センター「はあと」の機能強化。個別サポートファイル、支援台帳運用方法については、今後の課題。就学支援の「在り方検討会」、チーム支援の充実も今後も必要である。

- ・評価をして効果的な研修を進め職員の資質向上を図る。中学校を卒業してから18歳までの就労支援体制の整備をする。
- ・医療との連携は、専門医はいないので磐田病院小児科に世話になっている。すぐに受診は難しい。医療体制の充実は課題。磐田市あったかトータルサポートワーキング会議の中で検討する。

## ご意見

### \*SSW（スクールソーシャルワーカー）について

- ・連携は、縦につなぐだけでなく一人の子供を中心としてチームを組むことが必要である。SSWとコーディネーターも必要となる。行政福祉にコーディネートをしてくれる所がほしい。
- ・SSWは、家庭と連携が取れる。発達支援センター「はあと」にソーシャルワーカーはいる。社会福祉を専攻した人。社会福祉士の資格を持っている人。細かい制度がたくさんあるので知識ばかりでなく実務をやり経験がある人がいい。「この医療へ進めるといいですよ」「医療機関に受診するにはここの病院がいいですよ」等、熟知していて、ケースによって紹介する。

### \*児童相談所

- ・相談は、市町である。市町で受給者書を給付して利用できる。15歳の特例でサービスを受けられる。入所の措置機関は、磐田福祉事務所である。措置は、児童相談所でやっている。虐待の子供は児相の措置であるが、その他は事業所と親との契約である。基本的に窓口は、市町の障害福祉課である。手帳を持っていることでサービスの対象になる。

### \*医療との関連について

- ・発達支援室と福祉につなぐように整理するといい支援ができる。この子のためにチームを組むのは誰かというところを最初にやってもらえるといい。

### \*支援の継続について

- ・サポートファイル、いろはノートがもっと活用できるようにしたい。部活動は、発達障害の子供にとっては社会生活が学べる場である。教科担任、学校の先生すべてがその子の特性を理解して声掛けをしていくとすごくありがたい。

### \*磐田市の教育について

- ・小中一貫教育を推進している。中学校区を学府として、小学校と中学校を一貫した指導をしているという流れが動き始めている。特別支援教育も一貫した指導を目指している。中学校にいる特別支援コーディネーターが、声をあげて各先生方に呼びかけていく。研修で力を付けたコーディネーターが育ってきている。

### \*浜松特別支援学校磐田分校

- ・全県下、他県からも来ている。3年ごとの短いスパンで12年間見通した支援である。個別支援計画を1年ごとに作り、指導は軌道に乗っている。磐田市は、特別支援学級が33校中31校あるので教育支援計画が作られている。特別支援学級の子は、特別支援計画が確実にできている。

- ・特別支援学校にあがる子供の情報はきちんと入っている。つなぎの所も、しっかりしている。高等部は、説明会、教育相談を受けないと入試が受けられないので子供たちの情報がきちんと入っている。中学校の段階で支援を充実することが、将来の就労につながる。その意味でも中学校の連携がとても大事になってきている。

## (2) 関係各課から、保護者支援の取組と課題について

### \* 就労について

- ・法定雇用率がある。精神障害手帳をもっている発達障害の方の受け入れは増えている。特別支援学校卒業後の在宅は、いないようにしている。施設か就労である。
- ・特別支援学校を卒業して企業に行かずにいろいろな所へ行く子もいる。特別支援の場合は、小学部段階からキャリア教育を行っている。今やっていくことが就労につながることを、小学部段階からきちんとつなげている。中学部段階は実習の見学をしている。早い段階の早期のキャリア教育をしている。小6年間と中高6年間をきちんとつなげて、就労や社会へ出すようにしている。試験で高等部へ入ってくる子供は3年間しかないが社会へ出て通用できるようにしている。福祉事業所へ行く人もいる。生活保護の子供たちもその子に合わせた実習をする。

### \* 保護者支援について

- ・支援学校へ途中から入学してくる子供に共通しているのは、関係機関や医療等どこにもかかわっていないで、不登校になりかけていたり、知的障害が大変になったりしている。母親の病気の支援も必要な時もある。まずはきちんと医療につなげて支援会議を開く。
- ・磐田市は、特別支援学級はかなりの設置率である。キャリア教育という点で、袋井特別支援学校の情報を中学校がもらい研修を積んでいくと選択肢が広がる。磐田市は、数年前から中学校との連携は厚くやっていて県下でも数年前からの特別支援教育にかかわる取り組みは話題になっている。成果が少しずつ出てきている。

## 事務局

- ・第2回特別支援連携協議会の日程は、平成27年1月30日(金) 午後2時から 磐田市役所西庁舎 303 会議室で行う予定である。

## 8 閉会